

## 3・15大阪総行動に スト、休暇で結集！

生協労連大阪府連

3月15日、朝9時半から国労大阪会館に集合し、意思統一集会を開催。

集会では、「剰余35億、予算比130%でペアゼロは許せない。生協の存続しか考えていない！労働者の暮らしも考えろ！（いずみ）」、「パート採用時給すら改定しない。回答ではすべてが『人事制度改革の中で』。春闘で決着すべき課題だ。特に最低賃金は！職場実態と生活実感で交渉をおこなう。（パル）」、「新学期と春闘両方とも大学も頑張っています。（大学）」と決意が相次ぎました。

要請行動前の意思統一集会



いずみ、パル、よどがわの理事会へペアを実施しなかったことへの抗議の意味も込めて、単組との交渉では前進的な再回答を示すように要請行動を行いました。



単協理事会への要請行動



### 「なくせ原発」の声を広げよう！

3月14日、回答指定日の夕方に大阪府連定例の2400作戦（生協労連本部が提起している月一回の街頭宣伝行動の略称）を実施し、いずみ・パル・よどがわ・阪神統一から6人が参加して行いました。「なくせ原発」の署名宣伝行動を30分間の行動でしたがチラシを200枚、署名22筆集めました。

### 阪大労組・パート春闘交渉！

阪大労組は3月16日、春闘団体交渉（パート）を行いました。

交渉では、理事会より2011年度黒字決算をめざし、事業剰余で約1200万円の予算に対して、約3000万円の超過達成となるとの報告がありました。一方で、2012年度は豊中福利会館の耐震工事に伴う約5500万円の赤字予算を根拠に「今後何年かの中でも大変厳しい年になるので経費削減を重点的な活動方針としたい。一次回答で理解してほしい。」と説明がありました。

対して労組側は、パート労働者の奮闘にはベースアップで応えてほしいと、参加者全員が現場の実態を踏まえて発言、「私たちの声を理事会に持ち帰って再検討してください。」と一歩も引かず再回答を理事会に要求しました。阪大労組ではこの後3月30日に正規の賃上げ団交がおこなわれます。

## 時間制社員の時給を 1200円以上に引き上げろ！

＝郵産労が時限スト＝

3月19日、7時50分から、此花支部が時限スト集会を開催。大阪労連、地域労連、建交労、金融労連、年金者組合、jMIU、郵政ユニオンなど、支援者40名が支援にかけつけ、旧此花郵便局前で、スト突入集会を開催しました。

郵産労2012春闘要求、正社員10000円、時間制社員の時給1200円以上、希望者の正社員化などの要求に対し、日本郵政は、正社員と非正規では責任の度合いが違くと均等処遇を否定、賃上げ要求にはゼロ回答、年間一時金については、

「連合」j p 労組との妥結を受けて、昨年同様1.4カ月分カットの3.0カ月を示し、賃金引き上げ要求に背を向ける不誠意な回答に、中央闘争委員会は、全国拠点にスト指令を出し、大阪で此花支部が早朝の時限ストに突入しました。



## TPP参加で あなたの暮らしはどうなるの？

＝北河内地区協＝

3月17日（土）メセナひらかたにおいて北河内地区協と農民組合大阪府連合会の共同で学習会がおこなわれました。主催者を代表して田中耕三北河内地区協議会議長は「TPPは食・農・医療・雇用などさまざまな分野に危機を及ぼす。民主党政権がなかば強引に押し進めるTPP参加を許さない運動をみなさんと一緒に広げていきたい」とあいさつ。



講演をされる佐保副会長

講演をおこなった佐保庚生農民組合大阪府連合会副会長はTPPを巡る情勢は今後が山場で、「TPPはアメリカのアジア戦

略の一環であり『平成の開国』はまやかしてTPP参加で暮らし・地域・経済・医療・食の安全が破壊されるので、参加反対の声を広げていこう」と訴えました。会場から、「医療に市場原理が持ち込まれる混合診療を一番懸念している」など、国民・労働者の生活を守れとの発言がありました。

学習会では全労連が作成したパンフ「TPPは労働者に何をもたらすか？」も使用されました。

## フォーラム「堺市の未来と『大阪都構想』」開催

堺市の未来と『大阪都構想』「堺市の民意は…」と題し、18日、堺市職労が参加する同実行委員会の主催でフォーラムを開催。会場あられる参加のなか、高橋保前堺市副市長、立命館大の森裕之教授、大阪市労働組合総連合の中山直和書記長の3人のゲストからそれぞれの立場で発言をうけ、堺市を守り発展させる一点でのつながり広げていくことを確認しました。

高橋保前副市長は、橋下大阪市長について、任期途中でW選挙を仕掛け、当選した当日に、市長としての今後の取組みはそっちのけで国政に進出したいと述べたことや、維新八策の「決定でき責任を負う民主主義」（自分に従わない者は有権者の意に反するのだから去れという独断専横）と本来の民主主義（多様な意見の中から取り入れられるものは取り入れ粘り強く整合を図ること）との根本的な違い、「強き者のために弱き者は道をあける」という適者生存、優勝劣敗の経済・雇用政策などを指摘。最後に、堺市で勤務した経験から、「利害が一致しない問題を、力づくではなく、徹底して話し合い過程を大事にすること。結果は大事であるが、決定できる民主主義はその過程をすっ飛ばす。どんなに困難であってもこの手順を積み上げていくことが、民主主義であり未来をつかっていく」と語り、国を破壊するちゃぶ台返しに待ったを掛け、堺を守ろうという多くの人たちと同じ場に立てている幸せと感謝を述べ、話を結びました。

最後に、実行委員会事務局から、都構想から堺市を守り発展させる一点



で、市民的なつながりや共同を広げる「自由と自治・堺の会」（仮称）のような幅広い会を募らせてもらいたいと呼びかけ、参加者が大きな拍手でこたえました。